

消防の沿革

明治初年	藩政時代の遺風を踏襲して、各町内に自身番(火消組)を組織
明治 23 年	ポンプ 4 組、消防組 6 組を総員 260 人で組織
明治 27 年	勅令発布により、公設消防組を改組。組頭 1 人、小頭 20 人、組員 250 人を 10 部に編成し、各部に腕用ポンプ 1 台を配置
明治 32 年	組頭 1 人、小頭 24 人、組員 300 人で 12 部に改組
明治 39 年	蒸気ポンプ 1 台購入配置
明治 30～45 年	腕用ポンプ 12 台を購入、各部に配置
大正 4 年	消火器隊を各町内に組織
大正 5 年	消火器隊を義勇消防隊と改称
大正 6 年	ガソリンポンプ 1 台購入配置
大正 12 年	市内篤家成田太助氏他 9 人の寄贈により自動車ポンプ 1 台配置 若松警察署と郵便局との間に火災専用電話設置
昭和 14 年	勅令により消防組防護団を合併、警防団に改組。警防団に常備消防本部を置く。部長以下 14 人、自動車ポンプ 2 台を配置。又団体本部内に庶務部、避難所管理部、警護部、配給部、工作部、消毒部、救護部、交通整理部を置き、全地域を 52 分団とした。
昭和 18 年	警防団本部の組織を改組し、庶務部、救護部、常備消防部の三部制を実施
昭和 19 年	消防団本部庁舎建設後援会の後援により、市内栄町 210 番地に庁舎新築
昭和 22 年	勅令により、警防団を消防団に改組
昭和 23 年	消防組織法が施行され、自治体消防として発足、消防法施行される。
昭和 24 年	常備消防本部を廃し、消防本部、消防署を設置
昭和 26 年	北会津郡、町北町合併
昭和 30 年	湊村、一箕村、高野村、神指村、門田村、大戸村、東山村を合併し、会津若松市と改称
昭和 31 年	消防本部に消防専用無線電話(中短波)を設置
昭和 32 年	職員 10 人増員、消防長以下 44 人となる。
昭和 33 年	市役所屋上に火災報知用拡声施設を設置(出力 240W)
昭和 35 年	消防庁舎建設協力会の協力により、旧庁舎を取り壊し庁舎建設に着手 少年消防クラブ誕生
昭和 36 年	鉄筋コンクリート 2 階建の消防庁舎竣工 総工費 13,358 千円、延面積 695.32 m ² 、敷地面積 572.44 m ²
昭和 38 年	消防職員、消防長以下 50 人となる。
昭和 39 年	消防職員、消防長以下 52 人となる。専任消防長制度施かれる。 電話自動化(ダイヤル式)により 119 番設置

昭和 40 年	住居表示実施に伴い、消防本部、署の所在地は従来の栄町 210 番から栄町 5 番 20 号となる。 会津若松市消防署西出張所開設 所在地、湯川町 5 番 41 号、敷地面積 1,712.105 m²、建物延面積 169.77 m² 消防職員、消防長以下 59 人となる。
昭和 41 年	会津若松市消防署の一部改正、6 係、1 救急隊、1 出張所となり、救急業務を開始する。消防職員、消防長以下 66 人となる。
昭和 42 年	会津坂下町及び猪苗代消防団常備部々員の初任教養を実施(委託教養)
昭和 43 年	猪苗代町消防団常備部々員の委託教養を実施 屈折はしご付消防ポンプ自動車を購入配置 消防職員 4 人増員、消防長以下 70 人となる。
昭和 44 年	会津坂下町消防団常備部救急要員教養を実施(委託教養) 電話局 4 局設置に伴い、4 局 119 番増設される。 斎藤号、ライオンズ号入魂式举行、本部、署に配置 菊地司令補(当時消防士)町北町火災現場へ出動途上殉職、市内自在院にて消防葬を執行
12 月	消防職員 8 人増員、消防長以下 78 人となる。
昭和 45 年 9 月	会津若松地方広域市町村圏促進協議会を結成
昭和 46 年 7 月	会津若松市外 13 町村が広域圏に指定を受ける。 会津若松地方広域市町村圏設定協議書交換～設定(県知事と関係市町村)
11 月	広域市町村圏の基本構想、基本計画の作成開始
昭和 47 年 2 月	会津若松地方広域市町村圏協議会の廃止について各町村の議長に提案方要請するとともに、地方広域市町村圏整備組合の設立について議会に提案方規約を添えて要望した。
3 月	会津若松市を除く 13 町村に対し、消防本部、署、義務設置町村政令指定の内定を受ける。 昭和 47 年度における消防本部、署の消防施設及び人員整備計画を県消防防災課に提出
4 月	福島県指令知第 346 号により、会津若松地方広域市町村圏整備組合の設立が福島県知事から許可される。 会津若松市を拠点都市として、北会津村、会津坂下町、柳津町、河東村、湯川村、会津高田町、本郷町、新鶴村、三島町、金山町、昭和村、猪苗代町、磐梯町の 1 市 8 町 5 村をもって「会津若松地方広域市町村圏整備組合」が設立され、同日組合消防が発足

	会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部、署となる。 組合消防の発足に伴い、既設会津坂下町及び猪苗代町消防団常備部(消防自動車 2 台、救急自動車 2 台、人員 24 人)を吸収して 1 本部 1 署 3 出張所(消防自動車 8 台、救急自動車 3 台、人員 98 人)をもって広域消防業務開始
4 月	消防組織法第 10 条の規定により、会津若松市を除く組合構成 13 町村が自治省告示第 106 号により消防本部及び消防署を置かなければならない町村に指定
5 月	日本損害保険協会から救急自動車 1 台寄贈を受ける。
6 月	昭和 47 年 5 月 22・23 日の両日にわたり実施した採用試験により、消防職員 56 人、事務吏員(女)2 人の計 58 人を採用し、消防職員総数 156 人となる。
12 月	組合消防署、会津高田出張所開設 鉄筋コンクリート造一部 2 階建、延面積 348.25 m²、工費 20,140 千円、敷地面積 716.00 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 8 人を配置 組合消防署、昭和分遣所開設 鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積 110.18 m²、工費 6,800 千円、敷地面積 510.00 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 3 人を配置
昭和 48 年 1 月	組合消防署、十文字、柳津、金山出張所開設 十文字出張所 鉄筋コンクリート造一部 2 階建、建築面積 315.84 m²、工費 19,148 千円、敷地面積 991.50 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 8 人を配置 柳津出張所 鉄筋コンクリート造一部 2 階建、建築面積 189.00 m²、工費 11,000 千円、敷地面積 383.00 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 8 人を配置 金山出張所 鉄筋コンクリート造一部 2 階建、建築面積 189.00 m²、工費 10,700 千円、敷地面積 495.00 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 8 人を配置
2 月	社団法人日本自動車工業会から救急自動車 1 台寄贈を受ける。
3 月	会津若松地方広域市町村圏整備組合消防署に職員 8 人、会津高田出張所及び十文字出張所に各 7 人を増員配備
4 月	昭和 48 年度分第一期消防職員 26 人を採用し、消防職員総数 175 人となる。

7 月	昭和 48 年度分第二期消防職員 18 人を採用し、消防職員総数 192 人となる。
昭和 49 年 3 月	組合消防署、猪苗代出張所、会津坂下出張所開設 猪苗代出張所 鉄筋コンクリート造一部 2 階建、延面積 349.24 m²、工費 26,040 千円、敷地面積 1,027.42 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 17 人を配置 会津坂下出張所 鉄筋コンクリート造一部 2 階建、延面積 349.24 m²、工費 26,940 千円、敷地面積 813.76 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 15 人を配置
3 月	組合消防署、小松出張所開設 鉄筋コンクリート造一部 2 階建、延面積 316.00 m²、工費 22,640 千円、敷地面積 1,395.50 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 15 人を配置
4 月	組合消防署、レンジャー隊組織確立
6 月	ブロックマン教育実施される。(6 日間)
8 月	財団法人日本船舶振興会から救急自動車 1 台寄贈を受ける。
9 月	会津若松地方危険物安全協会から査察広報車 1 台寄贈を受ける。
昭和 50 年 10 月	会津磐梯ライオンズクラブから赤バイ(ホンダ CD125K5 型)3 台寄贈を受ける。
11 月	東北電力(株)福島支店からレンジャー用訓練塔寄贈を受ける。 訓練用鉄塔建設、A 塔 18.4m、B 塔 19.2m
昭和 51 年 2 月	速消車水・II 型更新、本署に配備
3 月	日本損害保険協会から救急自動車 1 台寄贈を受ける。
4 月	消防署、三島分遣所開設 鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積 163.62 m²、敷地面積 971.20 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 2 人を配置 消防署、磐梯分遣所開設 鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積 163.62 m²、敷地面積 729.37 m²、消防自動車 1 台、救急自動車 1 台、連絡車 1 台、赤バイ 1 台、超短波消防専用無線電話装置、人員 2 人を配置
5 月	組合消防署、磐梯、三島分遣所合同竣工式挙行(於：会津若松市「今村ビル」)
昭和 52 年 7 月	日本消防協会から広報車(バン)1 台寄贈を受ける。
8 月	会津若松市一箕町大字上蚕養字石堂境 474 番地の 5 に組合庁舎完成

	鉄筋コンクリート造一部 5 階建、延面積 2,458.18 m ² 、工費 334,320 千円、敷地面積 2,218.632 m ²
	会津若松地方危険物安全協会から広報車 1 台寄贈を受ける。
	会津若松地方消防設備協会、防火管理者会から広報車 1 台寄贈を受ける。
	白楡会から救急自動車 1 台寄贈され、組合消防署配備
	消防署(1 階)、消防本部(2 階)、新庁舎にて業務開始
	会津若松地方広域市町村圏整備組合庁舎落成式挙行
昭和 53 年 10 月	機構改革により猪苗代、会津坂下、会津高田の各出張所を分署と改称 職員定数 212 人に改正
	消防職員 10 人採用し、消防職員総数 201 人となる。
11 月	消防自動車(CD・II 型)1 台更新、西出張所に配備
昭和 53 年 2 月	救助工作車購入、組合消防署に配備
4 月	消防職員 11 人採用し、消防職員総数 212 人となる。
10 月	機構改革により 1 本部 3 署 1 分署 8 出張所となる。
	会津若松消防署、消防署会津高田分署、消防署会津高田分署小松出張所、消防署西、十文字の各出張所
	猪苗代消防署、消防署磐梯出張所
	会津坂下消防署、消防署柳津、三島、金山、昭和の各出張所と改称
10 月	(財)日本防火協会から 9 人乗マイクロバス型広報車 1 台寄贈を受ける。
11 月	超短波無線市町村波第 2 装置免許許可される。
昭和 54 年 2 月	化学消防自動車 II 型 1 台購入、会津若松消防署に配備
3 月	圏域内の既設婦人消防隊をもって、会津若松地方広域婦人消防隊連絡協議会が結成発足する。
5 月	会津若松地方消防設備協会創立 10 周年記念事業として広報車(トヨタ カリーナバン)1 台寄贈を受ける。
9 月	ヨークベニマルから救急自動車(II・B 型)2 台寄贈を受け、会津若松消防署、会津坂下消防署に配備
	救急自動車(II・B 型)1 台購入、猪苗代消防署に配備
12 月	消防自動車(CD・II 型)3 台購入(2 台増強、1 台更新)会津若松消防署、猪苗代消防署、会津坂下消防署に配備
昭和 55 年 7 月	広報車(スバル レオーネ)2 台更新、会津若松消防署、同西出張所に配備
8 月	救急自動車(II・B 型)2 台更新、会津若松消防署会津高田分署、会津坂下消防署昭和出張所に配備

11 月	消防自動車(CD-Ⅱ型)2 台、(CD-Ⅰ型)1 台購入(2 台更新、1 台増強)会津若松消防署 会津高田分署、同十文字出張所、会津坂下消防署柳津出張所に配備
昭和 56 年 6 月	有限会社ナガミネからミニ査察車(スバル レックス)2 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
8 月	広報車(スバル レオーネ)2 台更新、会津若松消防署会津高田分署、猪苗代消防署に配備
8 月	救急自動車(Ⅱ-B 型)2 台更新、会津若松消防署十文字出張所、会津坂下消防署柳津出張所に配備
10 月	会津坂下消防署増築 鉄筋コンクリート造 2 階建、延面積 481.49 m ² 、建築面積 261.09 m ² となる。
10 月	消防自動車(CD-Ⅰ型)1 台更新、会津坂下消防署金山出張所に配備
昭和 57 年 2 月	林野火災特別地域対策事業により、2 地域が福島県より指定を受ける。 会津両沼地区(会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津高田町、会津本郷町、新鶴村) 会津東部地区(猪苗代町、磐梯町、会津若松市、河東町)
2 月	住居表示の変更により、消防本部及び会津若松消防署の住所が会津若松市中央三丁目 10 番 12 号となる。
3 月	会津若松地方防火管理者会から、ビデオカメラ等一式寄贈を受け消防本部に配備
4 月	会津若松市より派遣を命ぜられていた 62 人の職員の派遣を解く。 消防職員定数 224 人となる。 消防職員 12 人増員し、消防職員総数 224 人となる。
8 月	広報車(スバル レオーネ)2 台更新、会津坂下消防署、会津若松消防署十文字出張所に配備
8 月	救急自動車(Ⅱ-B 型)2 台更新、会津若松消防署西出張所、会津若松消防署会津高田分署小松出張所に配備
10 月	機構改革により本部に予防課を新設、1 本部(総務課・予防課・消防課)3 署 1 分署 8 出張所となる。
10 月	消防指揮車(トヨタ ダイナ)1 台購入、会津若松消防署に配備
12 月	消防自動車(CD-Ⅰ型)1 台更新、会津坂下消防署昭和出張所に配備
12 月	猪苗代消防署増築 鉄筋コンクリート造 2 階建、延面積 488.83 m ² 、建築面積 346.54 m ² となる。
昭和 58 年 7 月	広報車(スバル レオーネ)2 台更新、会津坂下消防署金山出張所、会津坂下消防署昭和出張所に配備
9 月	(財)日本消防協会から電源照明車(トヨエース)寄贈を受け、会津若松消防署に配備

	9 月	救急自動車(Ⅱ-B 型)2 台更新、会津坂下消防署金山出張所、猪苗代消防署磐梯出張所に配備
	10 月	消防自動車(CD-Ⅱ型)1 台更新、会津若松消防署会津高田分署小松出張所に配備
昭和 59 年	3 月	(財)日本消防協会から救急自動車(Ⅱ-B 型)1 台寄贈を受け、会津坂下消防署三島出張所に配備
	7 月	小型動力ポンプ(B-2 型)1 台購入、会津若松消防署に配備
	9 月	救急自動車(Ⅱ-B 型)1 台更新、会津若松消防署に配備
	12 月	消防自動車(CD-Ⅱ型)2 台更新、会津坂下消防署三島出張所、猪苗代消防署磐梯出張所に配備
	12 月	広報車(スバル レオーネ)2 台更新、会津若松消防署会津高田分署小松出張所、会津坂下消防署柳津出張所に配備
昭和 60 年	3 月	会津坂下消防署、猪苗代消防署、会津若松消防署会津高田分署、電飾看板新設
	4 月	福島県共済農業共同組合から救急自動車(Ⅱ-B 型)1 台寄贈を受け猪苗代消防署に配備
	5 月	会津若松地方危険物安全協会創立 30 周年記念事業としてマイクロバス(トヨタコースター 29 人乗)1 台寄贈を受け消防本部に配備
	6 月	広報車(スバル レオーネ)2 台更新、猪苗代消防署磐梯出張所、会津坂下消防署三島出張所に配備
	10 月	消防自動車(CD-Ⅰ型)2 台更新、会津若松消防署、会津坂下消防署に配備
	10 月	会津若松ロータリークラブから消防本部旗一式寄贈を受ける。
	12 月	会津坂下消防署昭和出張所増改築 鉄筋コンクリート造平屋建、建築面積 133.11 m ² となる。
昭和 61 年	2 月	会津若松消防署西出張所移転用地として 9,187 m ² を取得する。
	4 月	普通乗用車 1 台更新、消防本部に配備
	5 月	広報車(スバル レオーネ)2 台更新、会津若松消防署に配備
	8 月	日本消防協会から救急自動車(Ⅱ-B 型)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
	9 月	星源孝 氏から水槽付消防ポンプ自動車(水-Ⅱ型)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
	12 月	会津若松南ロータリークラブからレスキュー隊旗一式寄贈を受け、会津若松消防署西出張所に配備
	12 月	消防自動車(BD-Ⅰ型)1 台更新、猪苗代消防署に配備 消防自動車(水-Ⅱ型)1 台購入、会津若松消防署西出張所に配備
昭和 62 年	3 月	会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部並びに湯川村消防団が自治省消防庁長官より表彰(竿頭綬)される。

3 月	会津若松消防署西出張所の移転に伴う会津若松消防署城南分署落成披露式を行う。
4 月	会津若松消防署城南分署開設 鉄筋コンクリート及び鉄骨造一部5階建、敷地面積 10,260 m ² 、建築面積 465.97 m ² 、延面積 847.60 m ² 、消防車両 6 台、人員 17 人配置、1 本部 3 署 2 分署 7 出張所となる。
5 月	広報車 1 台購入、会津若松消防署に配備
6 月	(財)日本防火協会から防火広報車(トヨタ ハイエース)1 台寄贈を受ける。
6 月	広報車(スバル レオーネ)1 台更新、猪苗代消防署に配備
9 月	山ノ内製薬株式会社から救急自動車(日産 キャラバン)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
10 月	救急自動車(Ⅱ-B型 4WD)1 台更新、会津若松消防署会津高田分署に配備
12 月	水槽付救助工作車(日野)2 台購入、会津坂下消防署、猪苗代消防署に配備
12 月	30m級はしご付消防自動車を購入、会津若松消防署に配備
12 月	30m級はしご付消防自動車納入披露、祝賀式を行う。
昭和 63 年 6 月	広報車(スバル レオーネ)1 台更新、会津坂下消防署に配備
7 月	会津スバル自動車株式会社からミニ査察車(スバル レックスコンビ)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
8 月	救急自動車(Ⅱ-B型 4WD)1 台更新、猪苗代消防署に配備
9 月	消防自動車(CD-Ⅱ型)1 台更新、会津若松消防署に配備
12 月	救助工作車 1 台購入、会津若松消防署に配備
平成元年 3 月	会津若松市はしご車購入後援会から広報車(スバルレオーネ)1 台寄贈を受け会津若松消防署に配備
8 月	(財)日本防火協会から救急自動車(Ⅱ-B型)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
11 月	消防自動車(CD-Ⅱ型 4WD)1 台更新、会津若松消防署に配備 救急自動車(Ⅱ-B型)1 台更新、会津坂下消防署に配備
平成 2 年 9 月	広報車(スバル レオーネ 4WD)1 台更新、猪苗代消防署に配備
12 月	消防自動車(CD-Ⅱ型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署に配備
平成 3 年 1 月	(社)日本損害保険協会から救急自動車(Ⅱ-B型 4WD)1 台寄贈を受け、会津坂下消防署昭和出張所に配備
7 月	広報車(マツダ ファミリア 4WD)1 台更新、会津若松消防署会津高田分署に配備
10 月	(社)日本損害保険協会から化学消防自動車(Ⅱ型)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備

	12 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)2 台更新、会津若松消防署会津高田分署、会津若松消防署十文字出張所に配備
平成 4 年	3 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署柳津出張所に配備
	4 月	消防職員 9 人採用、消防職員総数 233 人となる。
	6 月	会津若松地方防火管理者会から消防業務用連絡車(トヨタ ビスタ 4WD)1 台寄贈を受け、消防本部に配備
	8 月	広報車(トヨタ カローラ 4WD)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
	8 月	会津若松地方広域消防基本計画が制定される。 職員定数 289 人に改正
	11 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署柳津出張所に配備
平成 5 年	1 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署十文字出張所に配備
	4 月	消防職員 16 人採用、消防職員総数 246 人となる。
	7 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
	10 月	勤務時間 週 40 時間体制実施される。
	10 月	広報車(トヨタ カローラ 4WD)2 台更新、会津坂下消防署、会津若松消防署十文字出張所に配備
	10 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
平成 6 年	3 月	消防緊急通信指令システム構築、消防本部通信指令室を城南分署 2 階に移転
	4 月	消防職員 14 人採用、消防職員総数 257 人となる。 機構改革により通信指令室が消防課より独立、1 本部(総務課、予防課、消防課、通信指令室)3 署 2 分署 7 出張所となる。
	8 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、猪苗代消防署に配備
	8 月	広報車(トヨタ カルディナ 4WD)2 台更新、会津坂下消防署金山出張所、会津坂下消防署昭和出張所に配備
	9 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署金山出張所に配備
	10 月	消防本部総務課、予防課、消防課、会津若松消防署の電話をダイヤルイン方式に切り替える。
	10 月	消防無線中継システム運用開始、背炙り山、惣山に無線中継所を構築
	12 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署金山出張所に配備
	12 月	水槽付消防自動車(水 I-B 型)2 台更新、会津若松消防署会津高田分署、会津若松消防署十文字出張所に配備
平成 7 年	2 月	小型動力ポンプ付水槽車(II 型)1 台購入、会津若松消防署に配備
	2 月	福島総合警備保障から広報車(トヨタ カルディナ 4WD)1 台寄贈を受け、会津若松消防署会津高田分署小松出張所に配備

4 月	消防職員 12 人採用、消防職員総数 267 人となる。 機構改革により会津高田分署が署に格上げ、1 本部（総務課、予防課、消防課、通信指令室）4 署 1 分署 7 出張所となる。
4 月	J A 福島共済連から救急自動車(Ⅱ-B 型 4WD)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
8 月	広報車(スバル レガシーワゴン 4WD)2 台更新、会津坂下消防署柳津出張所、会津高田消防署に配備
9 月	救急自動車(Ⅱ-B 型 4WD)1 台更新、猪苗代消防署磐梯出張所に配備
平成 8 年 1 月	高規格救急自動車(4WD)1 台購入、会津若松消防署に配備
1 月	水槽付消防自動車(水 I-B 型)1 台更新、会津高田消防署小松出張所に配備
3 月	調査車(トヨタ ハイエース 4WD)1 台更新、会津若松消防署に配備
3 月	消防自動車(CD-I 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署三島出張所に配備
4 月	消防職員 9 人採用、消防職員総数 275 人となる。
7 月	乗用車(トヨタ クラウン 4WD)1 台更新、消防本部に配備
8 月	組合庁舎敷地内の訓練塔撤去
8 月	救急自動車(Ⅱ-B 型 4WD)2 台更新、会津坂下消防署、会津坂下消防署三島出張所に配備
8 月	人員搬送車(マイクロバス 29 人乗)1 台更新、消防本部に配備
9 月	広報車(スバル レガシーワゴン、レオーネ 4WD)2 台更新、猪苗代消防署磐梯出張所、会津坂下消防署三島出張所に配備
9 月	会津若松消防署城南分署に車庫(97.2 m ²)新築
11 月	住居表示の変更により、消防本部通信指令室・会津若松消防署城南分署の住所が会津若松市古川町 9 番 21 号になる。
12 月	水槽付消防自動車(水-II 型)1 台更新、会津若松消防署に配備 消防自動車(CD-I 型 4WD)1 台更新、猪苗代消防署に配備
12 月	福島県総合情報システム運用開始
平成 9 年 1 月	圏域内の 119 番通報を通信指令室に集約
8 月	広報車(トヨタ カルディナ 4WD)1 台更新、会津若松消防署に配備
12 月	高規格救急自動車(4WD)1 台購入、猪苗代消防署に配備
12 月	消防自動車(CD-I 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署に配備
平成 10 年 4 月	消防職員 4 人採用、消防職員総数 274 人となる。 携帯電話、自動車電話等から 119 番通報受理運用開始
4 月	(財)日本消防協会から救急自動車(Ⅱ-B 型 4WD)1 台寄贈、会津高田消防署小松出張所に配備

7 月	広報車(トヨタ カルディナ 4WD)1 台更新、会津若松消防署に配備
12 月	消防自動車(CD-I 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署に配備
平成 11 年 4 月	消防職員 5 人採用、消防職員総数 275 人となる。
5 月	会津若松地方消防設備協会から広報車(トヨタ ガイア 4WD)1 台寄贈、消防本部に配備
10 月	猪苗代消防署新築移転(猪苗代町字梨木西 19 番 1) 鉄筋コンクリート造 2 階建、敷地面積 3,438.41 m ² 、延面積 1,168.41 m ² 猪苗代消防署新築移転に伴う落成披露式を行う。
11 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津高田消防署に配備
12 月	消防自動車(水-II 型)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
12 月	西暦 2000 年問題(Y2K)対策のため、全職員が署所に待機して特別警戒体制をとる。
平成 12 年 4 月	消防職員 3 人採用、消防職員総数 275 人となる。
7 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署に配備
12 月	水槽付消防自動車(水 I-B 型)1 台更新、猪苗代消防署に配備
平成 13 年 4 月	消防職員 1 人採用、消防職員総数 274 人となる。
10 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署昭和出張所に配備
平成 14 年 4 月	消防職員 3 人採用、消防職員総数 273 人となる。
10 月	資機材搬送車 1 台更新、会津若松消防署に配備
10 月	高規格救急自動車(4WD)1 台購入、会津坂下消防署に配備
平成 15 年 4 月	消防職員 5 人採用、消防職員総数 274 人となる。
9 月	救急自動車(II-B 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
11 月	高規格救急自動車(4WD)1 台購入、会津高田消防署に配備 広報車(三菱パジェロ 4WD)1 台購入、猪苗代消防署に配備 広報車(ダイハツ マックス 4WD)1 台購入、会津若松消防署に配備
12 月	消防ポンプ自動車(水 I-A 型)1 台更新、会津坂下消防署に配備
平成 16 年 4 月	消防職員 6 人採用、消防職員総数 274 人となる。機構改革により消防本部において課係制を廃し、グループ制を導入、1 本部(総務グループ、予防グループ、警防グループ、指令グループ)4 署 1 分署 7 出張所となる。 通信指令室を通信指令センターと改称 管内基幹 4 署予防係に日勤者を配置
11 月	北会津郡北会津村の会津若松市への編入合併に伴い、会津高田消防署小松出張所が会津若松消防署小松出張所となる。

9 月	広報車(スバル プレオ 4WD)2 台購入、会津若松消防署、会津坂下消防署に配備
平成 17 年 3 月	救急自動車(Ⅱ-B 型 4WD)2 台更新、猪苗代消防署、会津坂下消防署金山出張所に配備
3 月	高規格救急自動車(4WD)2 台更新、会津若松消防署、猪苗代消防署に配備
4 月	消防職員 4 人採用、消防職員総数 273 人となる。
5 月	会津若松地方危険物安全協会から災害対応指揮車(トヨタ ハイラックスサーフ) 1 台寄贈、会津若松消防署に配備
5 月	会津若松消防署配備の広報車(スバル プレオ 4WD)を猪苗代消防署に配置替
8 月	(財) 日本宝くじ協会から消火・通報訓練車(マツダ)1 台寄贈、消防本部に配備
10 月	大沼郡会津高田町・大沼郡新鶴村・大沼郡会津本郷町の 2 町 1 村が合併し会津美里町となる。この合併に伴い会津高田消防署が会津美里消防署となる。
11 月	河沼郡河東町の会津若松市への編入合併
平成 18 年 4 月	消防職員 10 人採用、消防職員総数 274 人となる。
10 月	消防職員 1 人採用、消防職員総数 274 人となる。 機構改革により 2 部制から 3 部制とする。
10 月	広報車(スバル プレオ 4WD)1 台更新、会津美里消防署に配備
12 月	救急自動車(Ⅱ-B 型 4WD)2 台更新、会津若松消防署及び猪苗代消防署磐梯出張所に配備
12 月	消防自動車(CD-Ⅰ 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署に配備
平成 19 年 4 月	消防職員 16 人採用、消防職員総数 280 人となる。
9 月	会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部、会津若松市北会津町中荒井字諏訪前 11 番地 会津若松市役所北会津支所 2 階に移転
10 月	救助工作車(Ⅱ 型)更新 城南分署に配備
平成 20 年 3 月	高規格救急自動車(4WD)日本損害保険協会から寄贈、城南分署に配備
4 月	消防職員 17 人採用、消防職員総数 281 人となる。
12 月	消防自動車(CD-Ⅰ 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署柳津出張所に配備
平成 21 年 1 月	普通救急自動車(4WD)1 台更新、会津若松消防署小松出張所に配備
4 月	消防職員 18 人採用、消防職員総数 282 人となる。
9 月	広報車(ダイハツ テリオスキッド 4WD)2 台更新、会津若松消防署十文字出張所及び会津坂下消防署昭和出張所に配備
平成 22 年 3 月	消防自動車(CD-Ⅰ 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署に配備
4 月	消防職員 16 人採用、消防職員総数 287 人となる。
8 月	指揮車(三菱パジェロ 4WD)2 台購入、会津坂下消防署及び会津美里消防署に配備

9 月	広報車(ダイハツ テリオスキッド 4WD)1 台更新 会津坂下消防署金山出張所に配備
平成 23 年 2 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署金山出張所に配備
3 月	普通救急自動車(4WD)1 台更新 会津若松消防署十文字出張所に配備
3 月	東日本大震災 14 時 46 分 東北地方太平洋沖地震 マグニチュード 9.0 最大震度 7 ・ 広域管内震度 震度 6 弱 (猪苗代町) 震度 5 強 (会津若松市、磐梯町、会津坂下町、湯川村、会津美里町) ・ 活動内容 発災直後から人命救助活動等に加え、発災数日後から増加した避難所からの救急搬送への対応にあたり、延べ 6 5 隊、1 7 1 人を派遣しました。
4 月	消防職員 14 人採用、消防職員総数 283 人となる。 消防本部において課制への機構改革により、1 本部 (総務課、予防課、警防課、指令課)4 署 1 分署 7 出張所となる。
4 月	消防通信指令に関する事務を共同して管理・執行することを目的として、喜多方地方広域市町村圏組合と「会津若松地方及び喜多方地方消防通信指令事務協議会」を設置
8 月	指揮車(三菱パジェロ 4WD)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
10 月	広報車(ダイハツ テリオスキッド 4WD)3 台更新、会津若松消防署小松出張所、会津坂下消防署柳津出張所、会津坂下消防署三島出張所に配備
11 月	普通救急自動車(4WD)1 台更新、会津坂下消防署柳津出張所に配備
平成 24 年 3 月	高機能消防指令システムを導入し、会津若松地方・喜多方地方消防指令センターの運用開始
3 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)1 台更新、会津若松消防署十文字出張所に配備
4 月	消防職員 17 人採用、消防職員総数 288 人となる。
4 月	J A 共済連福島から高規格救急自動車(4WD)1 台寄贈を受け、会津若松消防署に配備
6 月	会津若松地方防火管理者会から消防業務用連絡車(トヨタ ラッシュ)1 台寄贈を受け、消防本部に配備
8 月	広報車(スズキ ジムニー 4WD)1 台更新、猪苗代消防署磐梯出張所に配備
平成 25 年 3 月	水槽付消防自動車(水 I - B)1 台更新、会津美里消防署に配備
3 月	化学消防自動車(Ⅱ型)1 台更新、会津若松消防署に配備

4 月	消防職員 17 人採用、消防職員総数 288 人となる。 機構改革により 3 部制から 2 部制とする。 会津若松消防署城南分署に消防本部訓練センターを設立
4 月	福島防災有限会社から乗用環境整備車(草刈機)1 台寄贈を受け、会津若松消防署城南分署に配備
8 月	広報車(トヨタ サクシード)1 台更新、会津若松消防署に配備
10 月	高規格救急自動車(4WD)2 台更新、猪苗代消防署及び会津坂下消防署に配備
11 月	30m級はしご付消防自動車を 26 年ぶりに更新
12 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)2 台更新、会津若松消防署小松出張所及び猪苗代消防署磐梯出張所に配備
平成 26 年 4 月	消防職員 20 人採用、消防職員総数 287 人となる。
8 月	乗用車(トヨタ カローラフィールダーハイブリッド)1 台更新、消防本部に配備
10 月	広報車(トヨタ カローラフィールダー)1 台更新、会津若松消防署に配備
平成 27 年 4 月	消防職員 15 人採用、消防職員総数 286 人となる。
11 月	無線中継車(トヨタ レジアスエース)1 台更新、会津若松消防署に配備
11 月	救急自動車(4WD)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
11 月	指揮車(三菱パジェロ)1 台更新、消防本部に配備
平成 28 年 3 月	消防救急デジタル無線システム運用開始
4 月	消防職員 4 人採用、消防職員総数 285 人となる。
5 月	福島防災有限会社から消防本部旗一式寄贈を受ける。
9 月	救急自動車(4WD)2 台更新、会津若松消防署、会津美里消防署に配備
11 月	一般財団法人救急振興財団から救急普及啓発広報車 1 台寄贈を受け、会津若松消防署城南分署に配備
12 月	消防自動車(CD- I 型 4WD)2 台更新、猪苗代消防署、会津坂下消防署三島出張所に配備
平成 29 年 3 月	会津若松地方広域市町村圏整備組合庁舎の耐震補強及び大規模改修工事完了
4 月	消防職員 3 人採用、消防職員総数 286 人となる。 指令課機構改革により 3 部制から 2 部制とする。
4 月	浪江町大規模林野火災 16 時 24 分 双葉郡浪江町の帰還困難区域「十万山」 ・活動内容 5 月 2 日から 6 日、8 日から 10 日まで消火活動等にあたり、延べ 14 隊、70 人を派遣しました。

9 月	総務省消防庁から緊急消防援助隊に係る無償使用車両として燃料補給車を受け、会津若松消防署城南分署に配備
12 月	救急自動車(Ⅱ-B 型 4WD)2 台更新、会津坂下消防署金山出張所、会津坂下消防署昭和出張所に配備
平成 30 年 2 月	会津若松地方広域市町村圏整備組合職員定数条例の一部改正(育児休業取得職員、派遣職員、長期研修職員等は定数外、再任用フルタイム職員は定数に含む。)
3 月	水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ型)1 台更新、会津若松消防署に配備
4 月	消防職員 4 人採用、消防職員総数 276 人となる。
10 月	会津若松地方消防設備協会から消防業務用連絡車(トヨタ プリウス 4WD)1 台寄贈を受け、消防本部に配備
11 月	救急自動車(4WD)2 台更新、猪苗代消防署、会津坂下消防署三島出張所に配備
平成 31 年 1 月	消防自動車(CD-I 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署昭和出張所に配備
3 月	会津坂下消防署新築 敷地面積 3,020 m ² 庁 舎：鉄筋コンクリート造 2 階建 建築面積 1049.45 m ² 延面積 1,450 m ² 訓練塔：鉄骨造 3 階建 建築面積 21.60 m ² 延面積 62.4 m ²
4 月	消防職員 8 人採用 消防職員総数 275 人となる。
令和元年 5 月	福島防災有限会社から高圧温水洗浄機 2 台、山岳救助用装備 5 セット寄贈を受け、高圧温水洗浄機を会津坂下消防署、会津若松消防署城南分署に配備、山岳救助用装備を猪苗代消防署に配備
6 月	三者間同時通話サービス運用開始
8 月	指揮車(三菱 デリカ)1 台更新、猪苗代消防署に配備、広報車(スズキ エブリィ)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
9 月	支援車(三菱ふそう ローザ)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
12 月	消防自動車(CD-I 型 4WD)1 台更新、会津坂下消防署に配備
令和 2 年 1 月	災害対応特殊小型動力ポンプ付水槽車 1 台更新、会津若松消防署に配備
1 月	救急自動車(4WD)2 台更新、会津若松消防署城南分署、猪苗代消防署磐梯出張所に配備
4 月	消防職員 9 人採用 消防職員総数 288 人となる。
9 月	広報車(日産 バネット)1 台更新、会津坂下消防署に配備 救急自動車(4WD)1 台更新、会津若松消防署小松出張所に配備 広報車(日産 NV150)1 台更新、猪苗代消防署に配備
12 月	水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅰ-B 型)1 台更新、猪苗代消防署に配備
令和 3 年 3 月	資機材 搬送車(いすゞ)1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備

4 月	消防職員 6 人採用 消防職員総数 289 人となる。
8 月	JA 会津よつば農業協同組合から災害用ドローン 1 台寄贈を受け、消防本部に配備
9 月	NET119 緊急通報システム導入
11 月	救急自動車（4WD）1 台更新、会津若松消防署十文字出張所に配備
12 月	広報車（日産 NV150）1 台更新、会津美里消防署に配備
令和 4 年 2 月	指揮車（トヨタ ハイエース）1 台更新、会津若松消防署に配備
3 月	水槽付消防ポンプ自動車（水 I-B 型）1 台更新、会津若松消防署城南分署に配備
令和 4 年 4 月	消防職員 3 人採用 消防職員総数 289 人となる。
12 月	水槽付消防ポンプ自動車（水 I-A 型）1 台更新、会津坂下消防署に配備
12 月	会津美里消防署新築 敷地面積 3,499.87 m ² 庁 舎：鉄筋コンクリート造 2 階建 建築面積 1,196.80 m ² 延面積 1,574.63 m ² 訓練塔：鉄筋コンクリート造 3 階建 建築面積 57.05 m ² 延面積 108.00 m ²
12 月	福島防災有限会社から高圧温水洗浄機 2 台、チルホール 1 台、ワイヤー 1 本、張力計 1 台寄贈を受け、高圧温水洗浄機を会津若松消防署、会津美里消防署に配備、チルホール、ワイヤー及び張力計を会津美里消防署に配備
令和 5 年 4 月	消防職員 4 人採用 消防職員総数 288 人となる。
12 月	救助工作車（Ⅲ型）1 台更新、会津若松消防署に配備
令和 6 年 1 月	福島防災有限会社から小型除雪機 1 台、応接セット一式、ワイヤレス音響機器一式の寄贈を受け、小型除雪機、応接セットを会津美里消防署に配備、ワイヤレス音響機器を消防本部に配備
1 月	救急自動車（4WD）2 台更新、会津坂下消防署柳津出張所、会津美里消防署に配備
令和 6 年 4 月	消防職員 4 人採用 消防職員総数 289 人となる。